

国立国語研究所学術情報リポジトリ

はしがき

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2020-03-18 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00002743

はしがき

本書は、国立国語研究所共同研究プロジェクト（萌芽・発掘型）「近現代日本語における新語・新用法の研究」の成果報告書である。

本プロジェクトは2010年11月にスタートした。当初のメンバーは、リーダーの新野、そして橋本行洋（花園大学文学部）、梅林博人（相模女子大学学芸学部）、島田泰子（二松学舎大学文学部）の3名の共同研究者であった。その後2012年7月から鳴海伸一（京都府立大学文学部）が加入した。

3年間で研究発表会は計7回開催した。第1回（東日本大震災発生の6日前であった）はメンバーを含めても一ケタの参加者であったが、京都で開催した（第3回）際には関西さらに中京・九州地区の研究者の参加もあった。その後は2ヶ月近く前から、メーリングリストやフェイスブックに加え、いくつかの研究会で告知チラシを配布するというオーソドックスなPR活動も行い、その甲斐もあって第6回、第7回は20人を超える参加者となり、発表会後の酒席も含め大いに議論を戦わせた。

そしてこの間には、日本語学会で2度のブース発表を行った。2度とも予想を上回る多くの来聴者があり、成功であったと思っている。このうち1度目（平成23年度秋季大会、高知大学）の発表は日本経済新聞ウェブ版の連載「ことばオンライン」に取り上げられ（同年12月13日掲載）、アクセスランキングで当日の全記事中1位、月間でも3位となった。この記事は、日本経済新聞社編（2013）『謎だらけの日本語』（日本経済新聞出版社）に「「全然いい」誤用説の起源は？」という題で収録されている。

プロジェクトは2013年10月をもって終了した。この報告書は、活動の締めくくりとして、メンバー全員が新たに執筆した論文を集めたものである。わずか5本ではあるが、学界に貢献できるものとなれば幸いである。

新野直哉